平成２３年度 第９回島根県民文化祭 出雲ステージ

しまね民謡大会

2011年
11月3日（文化の日）
9:15開場・9:45開演～14:30終了

スサノオホール
（出雲市役所佐田支所隣）
駐車場：佐田スポーツセンター
（会場川向う500mよりシャトルバス運行）

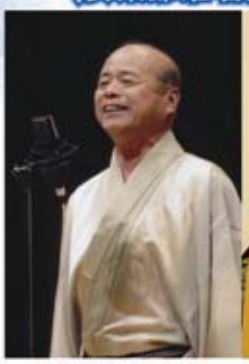
民謡は人々に育まれた心のふるさと、「島根の民謡」スサノオ神話の里に結集！

■プログラム

■ 9:45／午前の部
■ こども銭太鼓
こどもどじょう掬い男踊り
（佐田町民謡連合会）
■ 安来節、銭太鼓
湖陵音頭
（安来節保存会湖陵支部）
■ 安来節、銭太鼓
（安来節保存会神門支部）
■ 安来節、津軽あいや節
津軽民謡メドレーと
津軽三味線曲弾き
（中村民謡会出雲支部）
■ 出雲追分節
（出雲追分保存会西雲支部）
（出雲追分保存会本部道場）
■ 正調関乃五本松節
（正調関乃五本松節保存会）
■ 浜田節、浜田節と男踊り
浜田節と女踊り、浜田音頭
（浜田郷土民謡保存会）
■ 12:00 休憩

■ 13:00 午後の部
■ しげさ節、じょうじろう、隠岐追分
隠岐おわら節、隠岐相撲取り節
キンニャモニャ、どっさり節
（隠岐民謡協会）
■ 花笠音頭、しげさ節、隠岐磯節
津軽タント節、ヤンザラエ（歌謡曲）
秋田大黒舞
（隠岐の島出身民謡歌手：ゆかり）
■ 相撲甚句
（松江相撲甚句会）
■ 安来節、元唄かいがら節、ソーラン節
（安来節准名人：出雲正之助一行）

しげさ節の鍋の蓋踊り：隠岐民謡協会


安来節准名人：出雲正之助

隠岐の島出身民謡歌手：ゆかり

浜田節女おどり：浜田郷土民謡保存会

安来節どじょう掬い男おどり：佐田町民謡連合会

■入場無料／限定570席先着順入場　■会場周辺「スサノオごっとこいまつり」飲食物販売！

■お問い合わせ／ＮＰＯ法人スサノオの風　TEL&FAX 0853-84-0833（〒693-0506出雲市佐田町反辺1747-4・http://susanoo.kaze.jp/　E-mail:susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp）
■主催／島根県文化団体連合会 ■共催／佐田町文化協会 ■後援／出雲市・出雲市教育委員会・ＮＰＯ法人スサノオの風・佐田町民謡連合会・スサノオごっとこいまつり実行委員会
■協賛／朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、山陰中央新報社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局
ＮＨＫ松江放送局、山陰中央テレビ、ＢＳＳ山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、島根県ケーブルテレビ協議会、財団法人ごうぎん島根文化振興財団、島根県公立文化施設協議会、しまねミュージアム協議会

第９回島根県民文化祭出雲ステージ
しまね民謡大会

平成 23 年度　第９回島根県民文化祭　出雲ステージ

しまね民謡大会

地域で盛り上げる伝統文化、スサノオの里に結集！

スサノオ神話の源郷
出雲市佐田町

民謡は「心のふるさと」と言われ、郷土の歴史や風土の匂いが濃厚に漂っています。民謡の宝庫といわれる島根県内には、各地で受け継がれている「民謡」が数多く点在し、地域ぐるみの文化として、あるいは観光として活用され、次代につなぐ地域の貴重な文化遺産になっています。

その保存伝承にかかわる人たちは、地域の同好会に所属したり、家元制度などの保存会により継承してきました。

しかし近年、少子高齢化により、後継者対策、さらに発表の場の確保、組織の運営が大きな課題となっています。

伝統芸能のまちといわれる出雲市佐田町のスサノオホールを会場に、島根県内各地域の民謡団体を招致し、それぞれの地区に伝承される伝統や創作芸能の発表と交流を行い、保存伝承と、新たな島根の文化の創造を目指します。

■　安来節、銭太鼓、どじょう掬い踊り

安来節は江戸時代に「出雲節」などを基礎としていくつかの地元民謡を吸収しながら発達しました。末期から明治初期にかけて渡部佐兵衛とその娘である渡部お糸が大成しました。安来節の家元は代々渡部お糸を襲名し、現在の家元は第四代目です。

【銭太鼓】日本民族楽器の一種で、銭の触れ合う音を利用し、リズム楽器として踊りの伴奏に使用したものです。竹筒に穴のあいた銭を十文字に取り付けたもので、安来節の余技としてその独特の野趣に満ちた手振り調子は、安来節と切っても切り離せないものとなっています。

【どじょう掬い男踊り・女踊り】安来節の調子に合わせて、小川でどじょうをすくうときの動作を表現したものです。女踊りは、二人一組で踊り、唄の終わったところで立ち姿を男とし、座った姿を女とします。

■　出雲追分節

現在の長野県、信州中山道付近の追分宿で生まれた信濃追分が、越後に伝わり、その後、南方に下がり山陰の地に「舟唄」として残された唄が出雲追分の生まれた元といわれています。加茂町出身の初代出雲愛之助は、旅興行で信州に行き、旅人の歌った節回しに感動しました。その節回しを取り入れたものが、現在まで引き継がれている出雲追分といわれ、安来節と共に、出雲追分も公演に取り入れていました。

■　正調　関乃五本松節

長い航海を経て美保関に入港する船人たちは、島根半島が見えはじめ、入り江近くの小高い山に立つ五本の黒松が目に入ると、櫓を漕ぐ手も軽くなったといいますが、大名行列のじゃまになるという理由で、そのうちの一本を切ってしまいました。

船人たちは落胆し、せめて残りの松は夫婦松として末永く栄えるように、切らないで欲しいと願い歌ったのがこの民謡と言い伝えられ、横暴な藩主への批判とともに、船人達のやり場のない気持ちから自然にほとばしり出た唄だといわれています。

■　浜田節

１５世紀ごろ、港としてその名を朝鮮や中国にまで知られていたという浜田市は、江戸時代、北前船の寄港地でした。また、米や和紙、干し鰯などの特産品を大阪に輸送する積出港としても栄えていました。

「浜田節」は、もともと船乗りの酒盛り歌「ハイヤ節」が本歌で、それを浜田の心意気を歌い上げた「築港節」としてアレンジし、後に「浜田節」と改め、浜田港の発展とともに郷土に根付き親しまれた民謡です。

■　隠岐民謡（しげさ節・しょうじろう・隠岐追分、隠岐おわら節・隠岐相撲取り節・キンニャモニャ・どっさり節）

民謡の宝庫といわれる「隠岐の島」は、江戸時代、北海道や東北から北陸、山陰を通過する北前船航路（西廻り航路）の風待港でした。配流の島である隠岐島は、帆船によって運ばれた多くの文化を、独自特有の文化へと変貌させていきました。

【しげさ節】越後方面に伝承されている盆唄「しゅげさ」が元唄と言われ、江戸中期から後期にかけて隠岐に伝承し「しげさ」となったものと伝えられています。

【しょうじろう】隠岐では、盆唄また祝唄として残り、元唄は「越後くずし」といわれています。

【隠岐追分】隠岐の島の追分は本荘追分等とおなじく三味線、太鼓も入った少し賑やかさのある唄として残っています。

【隠岐おわら節】労作唄の部類に入るべきですが、酒席で盛んに歌われるようになり今では祝い唄として島に残っています。

【隠岐相撲取り節】隠岐は昔から宮相撲などが大変盛んで、今も隠岐古典相撲などとして残り、唄い継がれています。

【キンニャモニャ】熊本、長野のものと元唄が一緒らしい唄がありますが、隠岐の島では海士の港に伝わったものです。

【どっさり節】北前船の船頭達が積み荷唄として唄い継がれた賑やかな唄ですが、現在では隠岐にしか残っていません。

■　相撲甚句

相撲甚句は、邦楽の一種で、大相撲の巡業などで披露される七五調の囃子歌です。土俵上で力士 5〜7 人が輪になって立ち、輪の中央に１人が出て独唱します。周囲の力士たちは手拍子とともに「どすこい、ほい、あーどすこいどすこい」といったような合いの手を入れます。

起源、発祥についての定説はありませんが、享保年間に流行歌として定着したものと見られ、独特の節回しはひときわ人々の胸をうつものがあります。

〒693-0506島根県出雲市佐田町反辺1747-6（出雲市役所佐田支所隣）
ＴＥＬ：０８５３-８４-９００９／ＦＡＸ０８５３-８４-０８３３
Http://susanoo.kaze.jp/　Emal:susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp